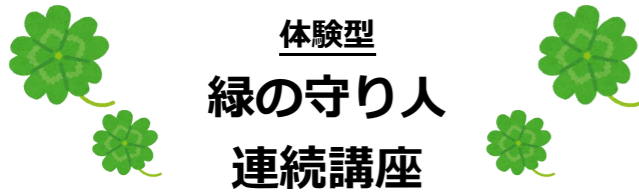


■まちサポ企画・お知らせ

しろい市民参加まちづくりデビュー講座

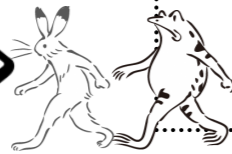


体験型 緑の守り人 連続講座

白井には豊かで魅力的な自然があり、様々な団体によって守られています。この講座は、現地体験・学習・ワークショップを通じて、白井の自然の魅力・秘密・守る努力を知って市民活動への参加者を増やす取り組みです。

講座終了時者には緑を守る団体を紹介するほか活動情報を提供して団体活動への参加を支援します。

関心のある人へお知らせください



講座スケジュール

- 9月11日(土) 第1回 白井の魅力的な自然を、市民団体のガイドで訪ねて回ります。
- 9月25日(土) 第2回 自然の中で行われる市民団体の活動に参加します。
- 10月17日(日) 第3回 白井の自然を豊かにしている地勢・文化・自然の仕組みを学びます。
- 11月27日(土) 第4回 自然の中で行われる市民団体の活動に参加します。
- 12月19日(日) 第5回 グループに分かれて体験と学習を振り返り、パネルにまとめます。パネルは、環境フォーラム・まちサポひろばで発表します。

【まちサポ通信】今年の掲載企画と情報の募集について

- まちサポ通信座談会を毎号企画し、実施内容を記事として掲載します。
同じ活動分野の団体同士や気になるテーマで一緒にお話をしてみませんか？
- イベント情報の告知掲載や実施報告など、団体活動の情報を掲載します。
- 地域で活躍している人、これから活躍したい人を取材します。



「白井をこんなまちにしたい」「ともに活動してくれる仲間を探している」など地域で輝く人を取り上げていきます。

(情報掲載の可否はまちサポの判断になります。ご了承ください)



※市民活動や地域活動でのお悩み・疑問、ちょっとした困りごとやなど、みなさんの声をお聞かせください。活動に関する個別相談も承ります。お電話またはメールにてお問い合わせください。

まちサポ通信 VOL.18 発行日 令和3年7月15日
発行元：しろい市民まちづくりサポートセンター
住所：白井市復1123 白井市役所 東庁舎1F
TEL：047-401-3729 (直通) 祝日のみ休館
MAIL: machisapo@city.shiroi.chiba.jp



まちサポFacebook
市民活動の最新情報・まちサポの企画や日々の出来事を発信中です。



FB しろい市民まちづくりサポートセンター

検索



しろい市民まちづくりサポートセンター通信 2021.7.15 VOL.18

白井市の市民活動団体の活躍情報や、コミュニティ活動に役立つまちサポのイベントやセミナーについて奇数月に発信しています。

トピック

- ・まちサポ通信座談会 しろいの子ども食堂
- ・出張レポート SINCS「歌いま唱歌♪」
- ・「緑の守り人」連続講座のご案内 他

ししばの丘クラブハウスのみなさん(2019年撮影)



子ども食堂の今とこれから

6月、しろいで活動している子ども食堂運営団体の皆さんと座談会を行いました。どんな思いで始め、今どのような活動をしているの？座談会を通して、みなさんの思いと、コロナ禍で工夫して事業を行なわれていることを知ることができました。子ども食堂の活動を知ることで、『こんなことなら協力できる』『食材を寄付できる』『一緒に活動してみたい』そんな地域のつながりができますように。(座談会の内容は次ページへ)

ホット ニュース

地域で必要とされることを サポートナース白井



先日、地域包括支援センターと連携し、高齢者の病院への付添いボランティアを始めました。さらに今後は白井工業団地協議会により行われる職域接種のサポートも予定

看護師OBを中心に結成された「サポートナース白井」

しています。今だからこそ必要とされることをとらえ、専門的なスキルを活かして地域で活躍しています。「これからもっと忙しくなりそう。ともに活動してくれる若い世代の仲間を増やしていきたい」と意気込みを聞かせてくれました。

(団体への問い合わせはまちサポまで)

まちサポ通信座談会 しろいで活動する 子ども食堂 運営団体

NPO法人まんぷく食堂（西白井）



◇活動のきっかけ 主宰の原口さんは美容師。テレビで子ども食堂を知って自分が子育てをしている時に子ども食堂があったら良かったなあ

と思いました。また、親からお金をもらい夕食を買って食べている子どもたちがいることを美容室のお客様から聞いたことで、立ち上げようと強く思いました。

◇活動を始めて5年 主に西白井複合センターで月1回調理をして食事の提供をしています。また西白井コミュニティプラザでも日曜日の昼食の提供を何回か行いましたが、コロナ禍の今は食材配布を行っています。利用者は大体固定していますが、毎月新たに3人ぐらい来ていただいています。「助かる」「ありがたい」という声を聞く、力になれてうれしく思いますし、励みになります。



食材は地域の農家、スーパー（ランドローム、タイヨー）フードバンクちば、フードバンクふなばしなどから

ししばの丘クレープハウス（白井）

◇活動のきっかけ 母の介護

で地域の人にお世話になったことがあり、いつか恩返しをしたいと思っていました。ボランティアセンター勤務時に今のメンバーのみな



の持ち帰りや、食材配布をしています。畑にはボランティアの人たちが10種類ほどの野菜を育てています。高校生、大学生、若い社会人のボランティアや、地元の子どもたちが収穫に来てくれるなど地域の交流の場にもなっています。コロナ禍

さんと出会い、高齢者施設菊華園の喫茶コーナーで焼きたてクレープと飲み物の提供を始めたのが活動のきっかけとなりました。平成29年からは、白井駅前センターで月1回、食事と焼きたてクレープの提供を始めました。子どもたちと一緒に思い思いのクレープ作りをしていましたが、現在はコロナ禍のため、食材配布を行っています。活動をしているなかで、食材配布のときや、道で歩いている時に中高生から挨拶をしてくれたり、子ども食堂以外でのつながりを感じることがとてもうれしく思います。



食材は地域の農家、フードバンクちば、企業などから。資金は生活クラブ千葉の助成金を活用している

しろいワクワクひろば（第一小近隣）

◇活動のきっかけ

平成29年頃、保育園の畑で収穫した野菜を調理して子どもたちと食べる活動にボランティアとして参加した時、自分の地域でもこんなことができたらいいなと思い、友だちに声をかけて立ち上げました。

◇収穫体験も楽しみのひとつ

平成30年から無料で畑をお借りしているいろいろな野菜を作り収穫し、ひだまり館でコロッケやばらっぱまんじゅうを作って食べるなどの活動をしています。コロナ禍になってからは、手作り弁当

で、いつも利用している調理室が使用できなかったとき、障がい者施設「ぼけっと」がキッチンを提供してくれたことで活動を継続することができたときは嬉しかったです。また、ボランティアが継続して参加してくれることも、ありがたく思っています。若い人が参加してくれることは将来へとつながると感じています。

6月じゃがいも掘りの様子（撮影 NPO法人sketch倶楽部）



食材は畑で収穫する野菜、社会福祉協議会や地域の農家から。資金は、白井市市民団体活動支援補助金を活用

◇今後の展望について◇

「白井市の子ども食堂団体が集まり運営協議会ができれば各団体で行動するよりも、公的な恩恵を受けることができると思う。」「地域の農家でも、子ども食堂のことを知っている農家は一部ではないか。担当課と連携することができればもっと多くの農家から協力してもらえるのではないか。」「このような座談会で顔を合わせることができ、それぞれの活動を知れたので、今後密に連絡を取ることができる。」「これからの子ども食堂団体の連携の可能性や、子ども食堂に関わる人の広げ方についても話が盛り上がりました。

（座談会 6月12日）

出張レポート

コロナに負けない！
楽しくフレイル予防

SINCS

（白井自然と芸術文化の会）

「歌いま唱歌♪」



◇白井の街中に歌と笑顔と元気を！

SINCSが主催する「歌いま唱歌♪」では、地域の人が共に歌って笑って元気になれる場を提供しています。コロナ禍では感染症予防のため、参加者はマスクを着用し、同じ方向を向いて歌い、歌詞カードは使い回しをせず持ち帰りにするなど工夫をしています。できることの中で活動をあきらめず、歌えない時期は『聴きま唱歌♪』に切り替えて実施したそうです。



◇つながりを感じられる居場所

取材の日は、いつもピアノ伴奏をされている平田さんが急用で参加できず、伴奏CDを流してみんなで声を合わせて歌いました。「次の曲は～」と紹介して下さったのは、下堂菌さん！何曲か歌った後、「面白いものを見つけました。干支別の運勢です。」と紹介下さったのは、藤川さん！みなさん今日の運勢を聞いて、お隣の方と顔を見合わせたり、ニコリしたり、歌はもちろん会場全体が一つになって楽しめていると感じました。市内女声合唱団有志でスタッフをされて

いる下堂菌さん、藤川さん、半田さん達は、「地域の居場所となり皆さんとつながっていただけること、参加している皆さんから元気をもらうことができます。」と話してくれました。

この日は、久しぶりに来られた人や市外にお住まいの人も来場されており、「歌が大好きなのはもちろんですが、ここに来るとみなさんに会えてうれしい。そして元気をもらえます。」とのこと。いつも楽しく参加される皆さんの気持ちが、よく伝わってきました。

◇SINCS 事務局 平田さんの思い

「誰もが知っている『故郷』という曲でも、この歌を歌ったり聴いたりするとき、ある人は南の福岡を、ある人は北の札幌を、両親や友人・若いころの自分を…それぞれちがうものを心に思い描きます。また、喜怒哀楽のどんな心情にも寄り添えるのが「歌」の魅力です。ご来場者には、いつもゆったりと楽しいひとときを過ごして頂きたいと願っています。」

◇取材を終えて

歌えないから中止！ではなく、時には『聴きま唱歌♪』で聴くことを楽しんだり、感染対策を徹底して歌を口ずさんだり、ちょっとした工夫で活動を継続されています。参加者同士、元気な顔を見るだけで、お互い元気になって！今まで経験したことのないような感染症に戸惑う中、「歌」のすてきな力によって笑顔と元気が生まれる！そんな気持ちになれました。「歌」っていいですね♪みなさん、ありがとうございました。（取材6月25日）